

3. 11東日本大震災 被災地の復旧・復興を願って

■問合せ 危機管理課 ☎(20)3056

3月11日、午後2時46分に未曾有の東日本大震災が発生しました。

本市でも住宅・店舗・工場の被害が発生したほか、広範囲に長時間の停電、断水、通信網や交通網の遮断など、市民生活に多大な被害を及ぼす今まで経験した事のない大震災でした。

そんな中、被災地の一日も早い復旧・復興に向け、多くの方が被災地への支援活動を行っています。また、津波などで家が流されたり、福島第一原子力発電所の事故などで、今も約270人が当市で避難生活を送っています。

今回、地震発生から約9カ月を迎えるにあたり、ボランティアとして支援活動に携わった人に、その思いを語っていただき、さらに避難している方には、現在の生活の様子を伺いました。

東日本大震災の復旧復興には、皆さんの暖かい支援の輪が必要です。引き続き、皆さんの支援をお願いします。

佐野市の被災地への支援状況

○支援物資を被災地へ輸送

- ・ 3月14日 北関東新潟地域連携軸による支援
水戸市、ひたちなか市、茨城町へ
トラック2台（毛布、水、パンなど）
- ・ 3月29日 福島県小野町へ
（協力：栃木県トラック協会佐野支部）
トラック2台（ブルーシート100枚、土のう袋
2,000袋、食料品、生活用品、衛生用品など）
- ・ 4月19日 福島県小野町へ
（協力：栃木県トラック協会佐野支部）
トラック3台（食料品、生活用品、衛生用品など）
- ・ 6月30日 加須市・元騎西高校（福島県双葉町
の集団避難所）へ生活用品

○職員派遣

- ・ 要請による被災住宅応急危険度判定
派遣先：宇都宮市内
派遣職員：建築指導課職員 各日1名
派遣期間：3月14日～16日
- ・ 被災自治体への市職員派遣
派遣先：福島県楢葉町
（災害対策本部・会津美里町 本郷庁舎）へ
派遣職員総数：11名（1～2週間交代）
派遣期間：4月25日から7月1日
- ・ 被災自治体への市職員派遣
派遣先：宮城県利府町
派遣職員数：1名
派遣期間：6月20日～7月15日

○中古消防ポンプ1台譲与

- ・ 4月25日
岩手県宮古地区広域消防組合
（岩手県宮古市）へ消防ポンプ
車両1台を譲与



本市では、これまで、左記の援助を行ってきました。また、現在も義援金の受け付け（本紙P.21参照）を行っているほか、職員派遣の準備も継続しています。今後も被災地復興の一助を担っていきます。

佐野地区広域消防組合

佐野地区広域消防組合では、常に地域住民の方々を守り「安全・安心」のまちづくりのために活動しています。

東日本大震災には、当消防組合は緊急消防援助隊栃木県隊として翌日から被災地に入り6月1日までの間、合計8回、延べ人員52人が岩手県、福島県で活動しました。

被災地では、どの場所も見渡す限り異常な光景で被災状況の大きさに言葉を失いました。



長島徹 医師

震災後、3回にわたって支援を行ってきました。

阪神・淡路、中越地震とは異なり、在宅での医療を必要とする要医療者が多いのが今回の特徴でした。寝たきりで、震災の停電などにより電動ベッドやエアマットが使えず床ずれを作っている方が多く、200人以上の方が我々の支援を待っていました。

当初は、全国からの医療者が気仙沼にも集結しておりましたが、夏の支援時には我々のチームのみになっておりました。要医療者を現地の医療機関に、紹介することによって医療支援はひとまず終了できました。

気仙沼では、皆さんに良くいただきました。佐野からよく来てくれた、と行く先々で声をかけていただき、食事を取っていないんだらうと支援のお米で作ったおにぎりを頂いたりと感激することが沢山ありました。



今回の支援にあたり、佐野市や医師会にご協力いただき、また帰りを待っていてくれた患者さん、法人職員に感謝いたします。

▲現地スタッフと
(上段右から4番
目が長島医師)

(社)佐野青年会議所

私たち(社)佐野青年会議所は震災直後に被災地へ支援物資を送り、その後、10月10日の炊き出しまで9回被災地に入り活動をさせてもらいました。

宮城県石巻市と女川町で活動しておりますが、3月4月の被災地の様子は言葉も失うほどの光景でした。帰ってきたメンバーの中には、普段の生活の中で急に涙が出てきてしまう人がいるほどの衝撃を受けました。その頃は、今を生き抜くので精いっぱいの人がほとんどの状況でしたが、最近は少し落ち着いてきたように感じます。

回数を重ねる毎に被災地の方々と顔見知りになり、声をかけてもらえるようになります。テレビや新聞では得ることのできない貴重なお話を聞くことができました。前回訪問した時の女川町の様子は、瓦礫がまとめられ本当に何も無くなってしまいましたが、お話しできた限りでは、最近みんなようやく笑えるようになってきたと聞きました。



▶現地での炊き出し

被災者にとってあと数年は大変な状況が続きます。最近報道もされなくなってきたので、もう大丈夫だろうと思われてしまうかもしれません。佐野市の皆さんには震災を忘れず、自分のできる事で良いので、細くても長い支援をして頂けたらと思います。

佐野市への避難者 佐藤乙丸さん・国子さん

佐藤乙丸さん・国子さんご夫妻は、福島第一原子力発電所から4.7kmの福島県双葉郡富岡町で米農家として暮らしていました。

震災後、福島第一原子力発電所の事故が起きました。「なるべく荷物を少なく」と、着の身着のまま避難をし、しだいに明らかになった事故の重大さを受け、避難に避難を重ね、この佐野市に避難してこられ、現在佐野市の市営住宅で暮らしています。

佐藤さんにとって縁もゆかりもないこの佐野市に來られ、仮の住まいで肩身の狭い思いやストレスを感じることもあるそうですが、地域の人々が声をかけてくれ「本当にありがたい」とおっしゃっていました。

米農家を営んでいた佐藤さん。避難して来てからは、畑を借りて自ら育てているほか、近くの農家の米作りや麦作りも手伝っており、佐藤さんが手伝った田んぼのお米はそのおかげで収穫が増えたそうです。



▶佐野の方との
そばパーティー

現在も折に触れて自宅を思い出し、涙を流してしまふこともあるそうですが、「佐野市の皆さんの援助が本当に温かく、感謝しかありません」とおっしゃっていました。

まだまだ終息しない福島原発事故ですが、すこしでも早く佐藤さんご夫妻が自宅に帰れる日が訪れますように。